



【巻頭言】

「エレクトロニクスにおける編集出版事業について」

(エレクトロニクスソサイエティ副会長編集出版担当)

松尾 慎治 (NTT 先端集積デバイス研究所)



平成 27 年度、28 年度と 2 年間編集出版担当の副会長を務めさせていただきました。すでに、ほぼ任期を終えておりますがこれまでの皆様のご協力に深く感謝いたしております。皆様ご存じのように本会は本年創立 100 周年の節目を迎えます。次の 100 年にも安定した出版事業が継続できるように、また、投稿しやすく読みやすい論文誌になるように各誌編集委員の方々に協力をいただきながら運営してまいりました。

皆様ご承知の事とは思いますがエレクトロニクスソサイエティ(ES)では、会員の皆様方の最新の研究開発成果を発信する場として、和文論文誌(C)、英文論文誌(C)、及びオンラインジャーナルの ELEX を発刊しております。近年の本会の出版事業での大きな変化は紙媒体を廃止させていただいたことです。ご不便をおかけしている面もあるとは存じますが出版事業としてみた場合の財務体制強化に大きく貢献しております。今後とも安定した出版事業を維持していくうえでは重要な施策でした。皆様のご理解に感謝いたします。

またエレクトロニクス独自の取り組みとして、和文誌においては招待論文数を増加させ日本語で読めるというメリットを生かして専門外の分野の事でも比較的簡単に理解できるなどのメリットを生かせるようにしております。英文誌においては従来からの特集号の取り組みを継続的に行っており、質の高い特集号となるように研究専門委員会の皆様の協力をいただきながら進めております。ELEX においては、国内のみならず海外からも多くの投稿を頂いております。ありがたい悲鳴なのですが査読を行うのがかなりの負担になっている、また速報誌なので迅速な査読が必要との判断から特別編集幹事を導入し質の高い査読レベルを維持しつつ迅速な採否判断ができるような対策を行っております。

任期中に議論はしてきたもののなかなか具体策が講じられなかったものとしては、やはりインパクトファクターの向上があげられます。他ソサイエティではオープンアクセス化などの対策を始めたところもあり、エレクトロニクスでも同様の議論を行っております。海外を中心とした研究者に論文を読んでリファーマーしてもらうにはオープンアクセスの方

が良いのですが、その場合は執筆者に費用の負担を求めることになり、それが会員サービスにつながるのかという問題もあります。また、エレクトロニクスには ELEX が既にオープンアクセスの論文誌として 2004 年より活動を行っており、エレクトロニクスには適していないのではないかと議論がございました。さらにインパクトファクターの向上には IEEE Explore などとの連携を考えられないかなどの議論も行われております。もちろん、信学会では独自に I-Discover も運営しておりますので、それを有効活用することも合わせての議論が必要です。皆様からの意見をいただきながら今後の方向性を議論していかねばならない課題です。

論文誌は皆様からの投稿により成り立つものであり学会の中心的な役割を担うものです。優秀な論文には表彰を行う制度もありますのでぜひ会員の皆様方から積極的な投稿をお願いいたします。また、編集出版事業は、査読者の皆様、もちろん編集委員の方々のボランティア精神に支えられての活動となります。今後とも皆様方のご協力をお願いいたします。

最後に、電子情報通信学会創立 100 周年記念事業の一環として、エレクトロニクスでも、懸賞論文を募集しておりました(ちょうどこの巻頭言が公開されるころが締め切りです)。本懸賞論文の募集にあたっては、実績豊かなベテラン研究者に限らず、次世代を担う若手研究者や学生の皆様からの、新鮮な思いや夢をベースとした将来構想・提言をお願いしております。どのような論文が投稿されたかとても楽しみです。このような未来への夢を皆で議論できるような場を提供するのも学会の一つの役割ではないかと思っております。

著者略歴：

1988 年広島大学材料工学専攻修了、同年日本電信電話株式会社入社。以来化合物半導体光デバイスの研究に従事。現在、NTT 先端集積デバイス研究所上席特別研究員。2010 年～2012 年エレクトロニクス編集委員長、2013 年～2014 年レーザ・量子エレクトロニクス研究専門委員会委員長、2015 年～2017 年エレクトロニクスソサイエティ副会長。2011 年、2012 年エレクトロニクス論文賞を受賞。本会シニア会員、IEEE フェロー。